

IV キャリア教育、実践的な職業教育

(1) キャリア教育への取組状況

①在校生に向けて

キャリアアップのための資格取得は、課外授業を活用して教育内容、方法、教材を工夫して実施している。また、授業終了後の個別面談などで、就職活動リテラシーの一環として実施している。

②卒業生に向けて

委託訓練生については、卒業した年の4月から9月まで、毎月就職状況の確認をしている。また、学校行事（吉福祭等）を通じ、卒業生の現状や養成校に求められることなどを聞き取り調査している。今後は卒後研修会の開催を定期的に取り入れていきたい。

(2) 実習の概要

①実習の目的

- 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。
- 個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。

②実習の内容及び特徴

- 介護実習Ⅰ－①（時間数：80時間、1年次前期）※令和6年度入学生

- 介護実習Ⅰ－①（時間数：120時間、1年次前期）※令和7年度入学生

施設の概要を把握し、初歩的な日常生活援助を行い、利用者を理解し、ニーズや介護機能を知り、施設職員の役割について理解する。

- 1) 施設概要の理解
- 2) 利用者の理解
- 3) 利用者のニーズの理解
- 4) 個別ケアの理解
- 5) 施設職員の関わりの理解
- 6) 介護技術の確認

- 介護実習Ⅰ－②（時間数152時間、1年次後期）※令和6年度入学生

- 介護実習Ⅰ－②（時間数160時間、1年次後期）※令和7年度入学生

障害のレベルに応じた介護の方法を学ぶ。医療・看護との関連で独自の判断で行ってはいない業務と連携方法について学ぶ。また、個別介護計画を立案する。

- 1) 施設概要の理解

- 2) 障害部位、程度及び基礎疾患の理解
- 3) 障害者、老人の心理の理解
- 4) 障害のレベルに応じた介護援助技術の実施
- 5) 個別介護計画の立案
- 6) 他職種協働の理解
- 7) 介護技術の確認

●介護実習Ⅰ－③（時間数 32 時間、2 年次前期）※令和 6 年度入学生のみ実施

自宅で生活する高齢者・障害者とその家族の実態を理解し、専門的知識・技術を用いて、そのニーズに対応した日常生活の援助を学ぶ。

- 1) 利用者及びその家族の生活状況の把握
- 2) 介護の必要性の理解
- 3) 介護過程の展開の理解
- 4) 他職種との連携の理解
- 5) 社会資源の活用理解
- 6) 介護保険制度のなかの居宅介護サービスの理解
- 7) 在宅介護における介護福祉士の役割の理解

●介護実習Ⅱ（時間数 192 時間、2 年次前期）令和 6 年度入学生

●介護実習Ⅱ（時間数 200 時間、2 年次前期）令和 7 年度入学生

施設運営プログラムを理解し、チームの一員としての介護福祉活動を学ぶ。利用者を総合的に理解して個別介護計画を立案し、実施・評価し、修正を行う。

- 1) 施設概要の理解
- 2) 他職種協働の理解
- 3) 個別介護計画の立案・実施・評価
- 4) 介護過程の展開の実施
- 5) 介護技術の確認
- 6) 介護福祉業務授業者としての自己覚知

③実習施設一覧

（3）就職支援等への取組状況

- ①履歴書の書き方、面接指導など個別対応による指導
- ②事務担当者との連携による就職活動の進捗状況の把握
- ③専任教員全員が支援協力できる情報共有体制の整備